

新入生向け

共通教育の学び方

～共通教育科目履修ガイド～

2019

共通教育科目は

学習基盤・キャリア科目

教養コア科目

教養アドバンスト科目

言語系科目

理数系科目

環境系科目

で構成されています



共通教育科目ってなあに？



それってさあ…どうやって
学んでいくのさ？



英語？数学？物理？
クォータ科目？
学習基盤？あー



そっか～！まずはこのガイド
を読むと分かりやすいだね。
この他にもウェブサイトにも
情報があるらしいよ



共通教育科目とは、
学びの基礎力、幅広い教養
を身につける科目のことよ



それを知るためにこのガイドがあるんだ！
必修科目や履修のルールがあるから
よく読んで、まちがえないように



ちょっと、落ち着きなさいよ！
私なんか読んで理解できたから
学習をスタートしちゃってるもんね～



このガイドは、新入生に必要な共通科目を履修するための情報を選んでまとめたものです。みなさんの履修のバイブルは『学生便覧』です。学生便覧をよく読み、ガイダンスをよく聞いて、わからない点は質問しましょう。

さあ新たな知識と出会い
未来への創造の扉を開けよう



日本工業大学

共通

教育学群

TEL : 0480-33-7571

<https://www.nit.ac.jp/original/common/>



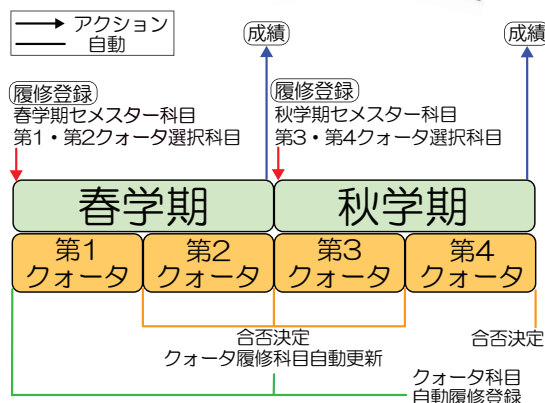
語学・理数

クォータ科目



クォータ科目って何だろう？

「クォータ」は英語で「4分の1」を意味します。クォータ科目は、1年を4つに区切ったそれぞれの期間で開講される科目を指し、講義科目では、言語系科目の英語（一部）と理数系科目の数学（一部）・物理・化学、演習科目では理数系科目の「工学基礎物理実験」と学習基盤科目の「ものづくり基礎実習」（→ p.4）があります。英語・数学・物理・化学の講義科目は週に2回（火曜日と金曜日）授業があり、小テスト、オンライン教材や問題集を使って繰り返し学ぶことができるので、短期間で効果的な学習ができます。自己学習の習慣もつき、上位学年での専門科目の修得にも役立ちます。



クォータ科目の履修はどうするの？

英語、数学、物理の講義科目では、入学時に受けるプレースメントテストの結果により、第1クォータで履修する科目が決まります。必修科目までは自動的に履修登録されるので、春学期の履修登録期間には第1クォータと第2クォータ、秋学期の履修登録期間には第3クォータと第4クォータの履修科目を日本工大サポータルで確認しましょう。「応用解析」「物理Ⅱ」「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」は登録期間に自分で履修登録をする必要があります。「工学基礎物理実験」は、履修するクォータが指定されるので確認しておきましょう。



クォータ科目はどうやって成績が出るの？

各クォータが終了するとすぐに合格が出ます。（ただし、成績はセメスターごとに出ます。）第1クォータの科目に合格したら第2クォータは次の科目に進み、不合格なら合格するまで第2クォータ以降も同じ科目を履修し直します。各教科の必修科目が合格するまで履修科目が自動的に更新されます。第1クォータが終了したら、第2クォータで履修する科目をサポータルで確認しましょう。



クォータ科目の必修科目って？

英語科目の「リーディングスキルⅠ」「リーディングスキルⅡ」、数学科目の「数学」、物理科目の「物理Ⅰ」「工学基礎物理実験」が必修科目です。



クォータ科目は進級とどんな関係があるの？

基幹工学部と先進工学部は必修科目の「数学」と「物理Ⅰ」の単位を修得しないと2年になれません。応用化学科は、これらの科目に加えて「化学Ⅰ」と「化学Ⅱ」の単位修得も2年への進級要件となっています。建築学部は2年になるためには言語系科目で2単位と理数系科目で4単位が必要です。2年から3年になるときは、どの学部でもクォータの必修科目を全て修得している必要があります。

クォータ科目 Q&A コーナー

Q. プレースメントテストの結果で指定された科目の、前の段階／次の段階の科目からスタートできますか？

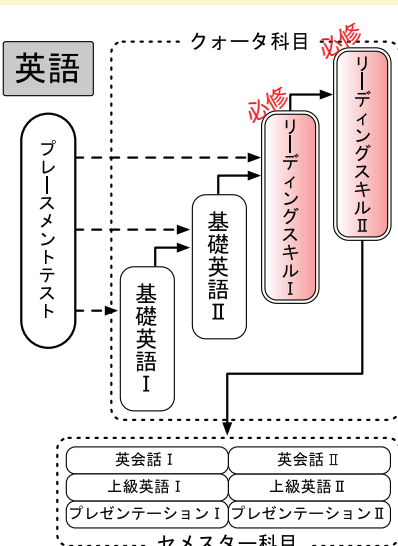
A. プレースメントテストの結果で決められた以外の科目からのスタートはできないよ。自動登録された科目を履修しよう。（後から前の段階の科目を履修することできません。）

Q. 履修登録画面で第1クォータの物理科目が空欄になっていますがどうしてですか？

A. プレースメントテストの結果で「物理Ⅰ」スタートとなっているけど、数学の条件を満たしていないので、第1クォータでは物理科目を履修することはできない、という事だよ。第1クォータで「基礎数学Ⅰ」に合格することを前提に、第2クォータには「基礎数学Ⅱ」と「物理Ⅰ」が自動登録されているよ。



その他の質問は
共通教育学群ウェブサイト
でチェック！



最初に履修するクォータ英語科目は？

プレースメントテストの結果に応じて、「基礎英語 I」「基礎英語 II」「リーディングスキル I」のいずれかを最初に履修します。

英語のクォータ必修科目は？

「リーディングスキル I」と「リーディングスキル II」です。

セメスター科目の履修方法は？

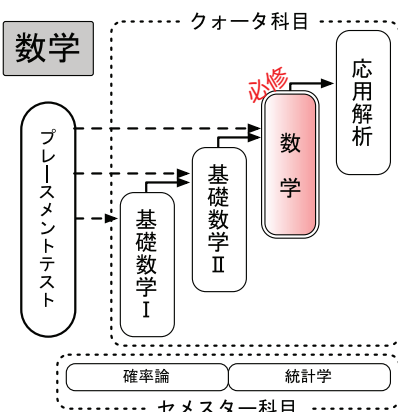
「リーディングスキル II」に合格するとセメスター科目が履修できます。

英語クォータ科目合格の秘訣は？

2 回の復習テストや各担当者が実施する試験の結果で合格が決まります。「基礎英語 I」はプリント教材を、「基礎英語 II」はテキストの単語・文法問題を、「リーディングスキル I」と「リーディングスキル II」はオンライン教材を活用してみましょう。また、小テストや課題は学修内容を確認するチャンス。できなかった問題は、次には必ずできるようにしておこう。

卒業に必要な英語科目の単位数は？

6 単位が必要です。英語科目はクォータ科目もセメスター科目も 1 科目 1 単位なので、卒業までに 6 科目を履修します。



最初に履修するクォータ数学科目は？

プレースメントテストの結果に応じて、「基礎数学 I」「基礎数学 II」「数学」のいずれかを最初に履修します。

数学のクォータ必修科目は？

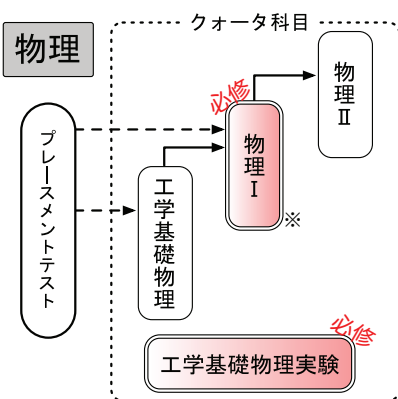
「数学」です。

セメスター科目の履修方法は？

条件はありません。セメスター科目は秋学期から開講され、クォータ科目との同時履修も可能です。

数学クォータ科目合格の秘訣は？

7 回的小テストの点数で合格が決まります。問題集を繰り返し解くことで解法を身につけ、小テストに挑もう。分からないところがあったら、教科書と解答集をじっくり読んでみよう。問題解答に関する全ての事が載っているため、自己学習に大いに役立つはずです。



最初に履修するクォータ物理科目は？

プレースメントテストの結果に応じて、「工学基礎物理」「物理 I」のいずれかを最初に履修します。(※ 数学の最初の科目が「基礎数学 I」の場合、「物理 I」は「基礎数学 I」が合格した後のクォータで履修します。)

物理のクォータ必修科目は？

「物理 I」と「工学基礎物理実験」です。

「工学基礎物理実験」の履修方法は？

学科ごとに履修するクォータが決められています。週 1 回、2 時限連続の授業です。

物理クォータ科目(講義科目)合格の秘訣は？

7 回的小テストの点数で合格が決まります。授業中に配布されるワークシートの問題は完璧に解けるようにしよう。

工学基礎物理実験合格の秘訣は？

毎回きちんと出席して実験を行い、結果や考察をまとめた実験報告書を提出しましょう。

化学 「化学 I」は第 1・第 3 クォータに、「化学 II」は第 2・第 4 クォータに開講され、いずれも選択科目です。履修する順番はどちらからでも構いません。応用化学科はこの 2 科目が 2 年への進級要件になっています。

【学修支援センター】

チューターの先生が、問題集やプリントを使い各教科の基礎を個別に指導してくれます。得意な教科や苦手な分野の基礎固めに最適です。特に「基礎英語 I」「基礎数学 I」「工学基礎物理」を履修する人は、積極的に活用しましょう。



【日本工大サポータル】

科目の履修状況に応じて、補習や支援センターでのサポートの指示を個別に出します。履修登録や成績の確認だけでなく、教員からの授業の連絡や呼び出しなどもサポータルを通じて行われるので、毎日チェックする習慣をつけましょう。

クォータ科目「ものづくり基礎実習 I」の受講については p. 4 を読んでください▶▶▶

学習基盤・キャリア科目

学習基盤科目とは

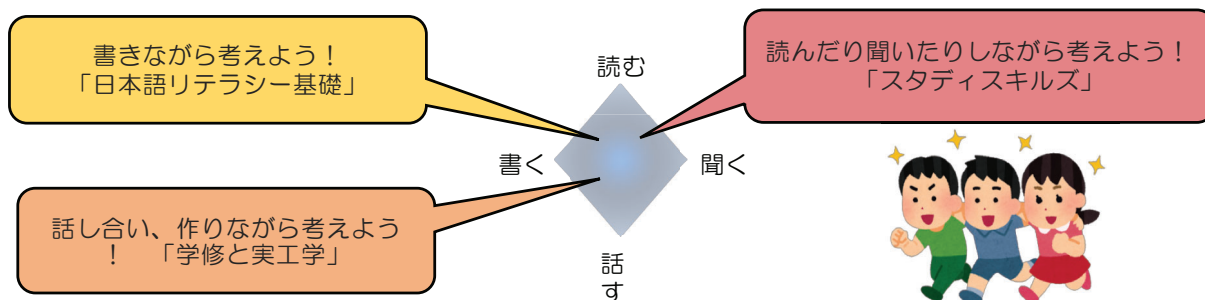
「スタディスキルズ」「学修と実工学」「日本語リテラシー基礎」「ものづくり基礎実習」からなります。このうち「スタディスキルズ」「学修と実工学」「日本語リテラシー基礎」では学びの基礎となる日本語力を高めながら、自分に合った学び方を見つけ、自ら学ぶ力を高めます。

➤ 1年春学期の履修について

- ✓ 春学期は「スタディスキルズⅠ」「学修と実工学Ⅰ」「日本語リテラシー基礎Ⅰ」が開講されます。3科目は同じ曜日・時限に開講されますので、1つだけ選んで履修してください。
- ✓ 1科目1単位です。2年終了時までに2単位以上修得することが必要です。
- ✓ 秋学期は各科目のⅡが開講されます。累進科目ではないのでⅠとⅡを続けて履修しても、違うものを履修しても構いません。

➤ 科目選択のヒント

自分自身の興味関心や、得意分野を伸ばしたい・苦手なことを克服したいなど、それぞれの必要性に応じて科目を選びましょう。ここにある説明やシラバスを参考にしてください。



「スタディスキルズⅠ」

～ 《わかったつもり》から《なるほど!》へ～

大学生に必要な日本語力とは何でしょうか。文学作品を読む力や、文学的な文章を書く能力が必要なのではなく、専門の講義を聴き、教科書を読み、理解し、資料から必要な情報を読み取り、レポートを書くという基本的な作業のすべてを論理的にスムーズに行える日本語力だと言えるでしょう。

本科目教材『やってみればおもしろい! 大学生のための日本語再発見』より

☆ 教室でのアクティビティ

たとえば《単語あて》では、学生同士でペアを組んで単語の説明を見て何の説明かを当てっこします。言葉によって定義されたことを多面的、多層的に理解していく練習です。そのほかにも、《図形あて》《四コマ漫画あて》など、たくさんの課題にチャレンジします。

☆ 基礎をかためるドリル学習

文章を理解するのに必要な語彙力を集中的に高めます。



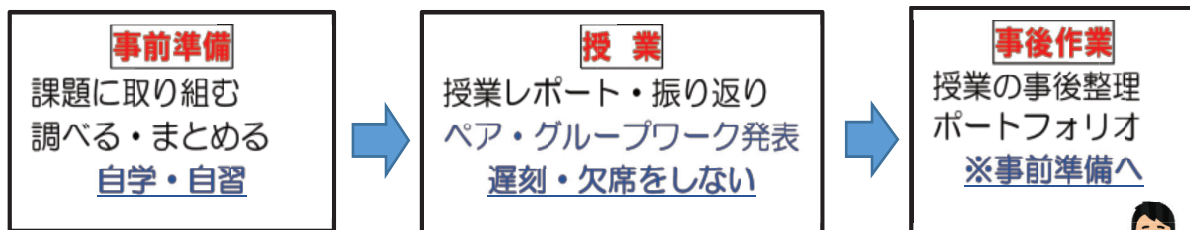
楽しく学んで、専門分野をよりよく理解できるようになるための基礎力を伸ばしましょう!

「学修と実工学Ⅰ」

～ 話し合い作りながら考える・自分の手で作ったものを発表する ～

受動的な学習態度から能動的な学修態度へ 学習に対する考え方を変えよう！

- ❖ 高校と大学の《学びの違い》を考えます。本大学が掲げる《実工学教育》の導入段階として、ものづくりについて考え、簡単な工作を学生個人や仲間と共に制作します。
- ❖ 予習重視型の演習授業として、次の授業で行う内容を各自が準備し、授業時間外での学習を行う必要があります。
- ❖ 教室内では、ミニレクチャと合わせ、ペア・グループワークを行い、コミュニケーション力を高めます。
- ❖ 考えたことや制作した内容を発表する機会（プレゼンテーション）が多くあります。



☆ 具体的なテーマ

- ・調べて発表する：ものづくりの達人
- ・作りながら考える：つまようじタワー
- ・先端技術を知る：AI、IoT
- ・共に学ぶ仲間作り：コミュニケーションワーク



「日本語リテラシー基礎Ⅰ」

～ 理解したこと・説明したいことを文章にする ～



「日本語リテラシー基礎Ⅰ」では、文章を書くための技術と日本語の知識を学び、文章作成の課題にも取り組みます。この授業を通じて文章を書くことに慣れ、大学で課されるレポート・論文に対応できる力を身に付けましょう。

☆ 要約文・説明文を書いてみよう

要約文とは、文章の内容を凝縮させて重要な部分をまとめたものです。グラフの説明文とは、グラフで表されている内容を言葉で表してまとめたものです。どちらの文章も、まとめるためには正確に理解していなければなりません。要約文・グラフの説明文を作成しながら読解力も養い、専門的な分野を学ぶ上で必要な力も伸ばしていきましょう。

☆ レポートを書いてみよう

大学生らしいレポートとはどのようなものでしょうか。レポートの型や、調べたことを分かりやすくまとめる構成の工夫について学び、報告型のレポートを完成させましょう。

到達目標：レポートや論文を書く上で必要な技術を身に付ける

一人ずつ添削します

「ものづくり基礎実習Ⅰ」：1年向けに開講 (コア科目、選択)

これまで実習や工作の経験が少ない方、木工・金工・電気の基礎を総合的に体験したい方向けの科目です。
受講を希望する方は、以下の説明会に必ず出席してください。

- 日時：4月6日（土）11時または13時
（どちらかに出席してください。）
- 場所：4号館401教室

【注意】この説明会を欠席すると受講することができません。
説明会に出席できない場合は、事前にスチューデントラボへ申し出てください。

キャリア科目：2年向けに開講

具体的な授業内容などは、シラバスを参照してください。

将来



学びの基礎

それぞれの
専門的学び
幅広い教養

学び続け
社会で活躍する人材へ

学習基盤を形成して 《つなぐ》

教養コア科目と環境系科目



教養コア科目とは

社会人として必要な教養を身につけるための科目です。人文系、社会系、自然系及びスポーツのさまざまな分野の科目があります。それらの科目を幅広く学ぶことで、エンジニアとして、また社会を構成する市民としてのアイデンティティを確立し、主体的に生きる力をつけることを目指します。

環境系科目とは

持続可能な環境共生社会の一員としての基礎知識を学び、環境の問題を意識して具体的・総合的に考えて自ら発信できる力を身につけます。ものづくりをする人にも社会人としても、欠かせない基礎となるものです。

➤ 卒業要件

卒業までに、教養コア科目を11単位以上、環境系科目を4単位以上修得してください。

1年春学期の時間割

1年春学期には表1の通り、月曜日1、2時限と水曜日1、2時限及び木曜日3時限の5つの時間帯で開講されます。したがって、1年春学期に教養コア科目と環境系科目を合わせて最大5科目まで履修することができます。ただし、この時間帯に専門科目がおかれている場合は、専門科目を優先してください。

表1：1年春学期に履修できる教養コア科目と環境系科目の時間割（茶：教養コア科目 青：環境系科目）

	1時限	2時限	3時限
月曜日	文学 法学（日本国憲法） 自己理解と対人関係の心理学 健康とスポーツⅠ（I） エコ入門	文学 法学（日本国憲法） 自己理解と対人関係の心理学 科学へのいざない 健康とスポーツⅠ（ER） エコ入門	
水曜日	文学 法学（日本国憲法） 自己理解と対人関係の心理学 科学へのいざない 健康とスポーツⅠ（AL）	文学 法学（日本国憲法） 自己理解と対人関係の心理学 健康とスポーツⅠ（MC） エコ入門	
木曜日			エコ入門



➤ 履修方法

- ✓ いずれの科目も選択科目です。自分で履修登録する必要があります。
- ✓ 「健康とスポーツⅠ」は学科（コース）を指定していますが、それ以外の科目は、どの時間にどの科目を履修しても構いません。（「健康とスポーツⅠ」を履修しない場合は、その時間に他の科目を履修することができます。）
- ✓ いずれの科目も、秋学期にも開講されますし、2年以上で履修することも可能です。また、秋学期からは別の教養コア科目及び環境系科目も開講されます（表2参照）。（さらに、2年以上で履修できるようになる科目もあります。したがって、1年春学期に無理をして4科目履修する必要はありません。専門科目、クォータ科目、学習基盤科目の修得を優先した上で、自分のペースで履修していき、卒業までに必要な単位を修得して下さい。


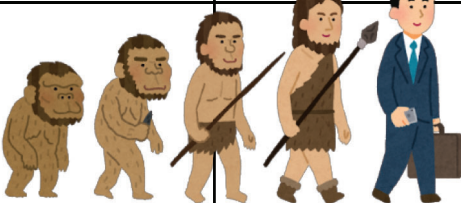


➤ 参考

- 「健康とスポーツⅠ」は春学期と秋学期で種目が異なります。春学期はバレーボール、ソフトボール、テニスから、秋学期はバスケットボール、サッカー、テニスから選択できます。希望する種目に応じて履修して下さい（春学期、秋学期のいずれかのみ履修できます）。1回目の授業には普段着で体育館に来て下さい。オリエンテーションと種目の選択をします。
- 教職課程を履修して教員免許状を取得しようとする場合は、「法学（日本国憲法）」が必修です。その他にも「健康とスポーツⅠ」、「健康とスポーツⅡ」（2年科目）のいずれかを修得する必要があります。卒業までに修得して下さい。



1年秋学期の時間割

表2：1年秋学期に履修できる教養コア科目と環境系科目の時間割（茶：教養コア科目 青：環境系科目）

	1時限	2時限	3時限	4時限
月曜日	文学 法学（日本国憲法） 健康心理学 経済学 健康とスポーツⅠ（RAL）	文学 法学（日本国憲法） 健康心理学 経済学 科学へのいざない 健康とスポーツⅠ（I）		
火曜日	生命と生態系のしくみ		健康心理学 生命と生態系のしくみ エコ入門	
水曜日	文学 法学（日本国憲法） 健康心理学 現代産業論 科学へのいざない 健康とスポーツⅠ（全学科） 環境と科学技術	文学 法学（日本国憲法） 健康心理学 現代産業論 健康とスポーツⅠ（MEC） エコ入門		
木曜日			哲学 歴史学 自己理解と対人関係の心理学 エコ入門	哲学 歴史学 自己理解と対人関係の心理学



教養アドバンスト科目



- ❖ 2年からは教養アドバンスト科目も履修して下さい。教養コア科目が工学の専門以外の分野を幅広く学ぶのに対して、教養アドバンスト科目では専門以外の分野を掘り下げて学びます。
- ❖ 卒業までに4単位以上修得して下さい。
- ❖ 教養アドバンスト科目のうち「異文化理解」と「異文化交流」は、ドイツ語とドイツの文化を学ぶ授業、フランス語とフランスの文化を学ぶ授業、中国語と中国の文化を学ぶ授業の3種類があります。履修する場合はシラバスを確認して下さい。また、「教養特別講義」は共通教育系の複数の教員が担当し、それぞれの専門分野の内容を講義します。内容は年度によって変わりますので、履修する年度のシラバスをよく読んで関心に応じて選択して下さい。

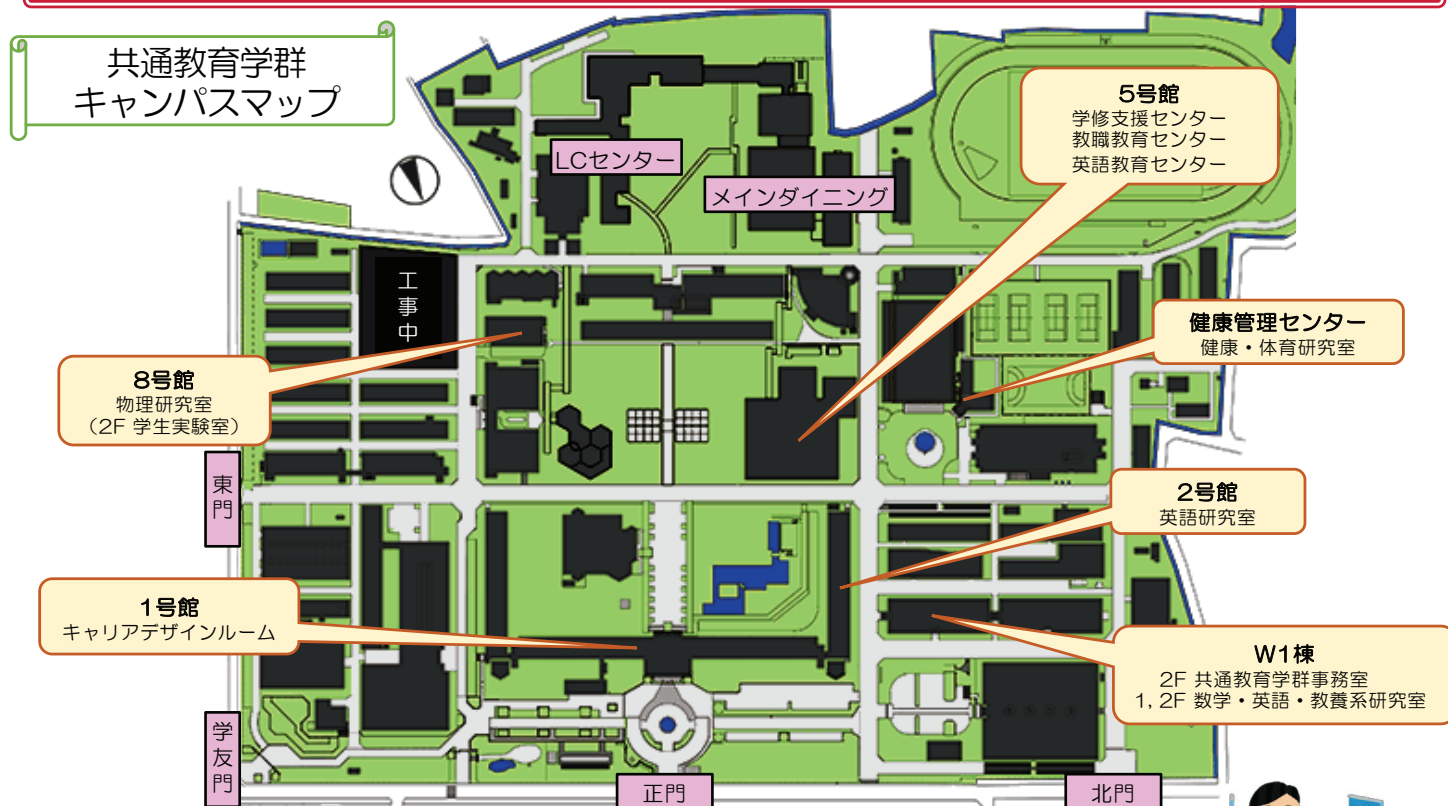
➤ 進級要件について

学年進行		基幹工学部	先進工学部	建築学部
1年 ↓ 2年	総修得単位数	総修得単位数：30単位以上 (教職に関する科目、及び自由科目は除く)		
	学部共通の 進級要件科目	<ul style="list-style-type: none"> クォータ科目「数学」「物理Ⅰ」を修得していること 「フレッシュマンゼミ」を修得していること 応用化学科は、クォータ科目「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」を修得していること 		<ul style="list-style-type: none"> 言語系科目2単位以上、理数系科目4単位以上を修得していること 「フレッシュマンゼミ」を修得していること
2年 ↓ 3年	総修得単位数	総修得単位数：60単位以上 (教職に関する科目、及び自由科目は除く)		
	学部共通の 進級要件科目	<ul style="list-style-type: none"> クォータ科目の必修科目「リーディングスキルⅠ」「リーディングスキルⅡ」「数学」「物理Ⅰ」「工学基礎物理実験」を全て修得していること 学習基盤科目：2単位、情報リテラシー：2単位、キャリア科目：2単位を修得していること 		
3年 ↓ 4年	総修得単位数	総修得単位数：108単位以上 (教職に関する科目、及び自由科目は除く)		

上記の進級要件の他に、学科ごとに進級要件が設定されています

詳しくは学生便覧や各学科の説明で確認してください

進級要件を充足しなければ、その学年に少なくとも1セメスターは留まります(留年)



《履修方法・科目の内容に関する相談窓口》

- ❖ 4年間に渡る履修方法全般のこと ➡ 教務課：1号館1階 1-151室
- ❖ 共通教育科目の履修のこと ➡ 共通教育学群事務室：W1棟2階 216室
- ❖ 教職課程に関すること ➡ 教職教育センター：5号館2階 5-201室
- ❖ 学修の相談・つまづき・学びなおし等 ➡ 学修支援センター：5号館1階 5-101室

こちらで共通教育科目の各先生方の研究室を知ることができます

